

「ドナルド・トランプの神学」

2016年12月15日

トランプ氏は泡沫候補と見なされていたが、並居る共和党の実力者を抑え、大統領候補者に躍り出た。民主党の候補者クリントン氏と争うことになり、ジャーナリズムの殆どはクリントン氏の優勢を伝えていた。ところが、トランプ氏は勝利し、次期大統領に選ばれた。予想外の結果で、多くの米国民も世界の人々も驚いた。米国大統領は世界に最も大きな影響を与える。トランプ氏は政治経験がなく、また人種、性、同性愛に対する差別的発言などから不安に駆られた論調が多い。月刊誌『世界』の1月号で「『トランプのアメリカ』と向き合う」を特集している。11名の米国通の識者が、トランプ氏が勝利した米国内の事情や世界情勢との関連を分析し、今後の世界の展望について論文を寄せている

その中に、国際基督教大学の森本あんり教授が「ドナルド・トランプの神学 プロテスタント倫理から富の福音へ」と題して寄稿している。トランプ氏の信仰問題を書いた興味深い特異な論文なので、紹介したい。

ノーマン・ヴィンセント・ピールという改革派教会の牧師が『積極的考え方の力』を著わし米国で500万部、世界各国で2,000万部のベストセラーになった。内容は「自信を持ちなさい」という単純な勧めで、ネガティブな思考を止め楽観的に考えると、成功と幸福が約束されるというメッセージである。ピール牧師は下記のように諭す。「わたしを強くしてくださるかたによって、何事でもすることができる（フィリピ書4章13節）」を紙に書いて、出勤前に3回読みなさい。セールスマンに「もし神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか（ローマ書8章31節）」を何度も唱えなさいと。

トランプ氏は、ピール牧師の言葉を徹底的に受け入れ、「積極的思考」の生ける模範となった。牧師はトランプ氏を「自分の最高の弟子だ」と褒めそやしたという。牧師はまた、「謙遜であること」「怒りに身を任せないこと」「口を慎むこと」なども教えていたが、これらはトランプ氏の耳に届かなかつたし、女性問題に関しても差別的で、離婚、不倫騒動と奔放で、聖書の教えから逸脱した。トランプ氏の父親は長老派教会に通い、伝統的なプロテスタント倫理に基づき、勤勉な努力家であった。トランプ氏は父親から勤勉に働けば報われるという信念を受け継いだ。酒もたばこもせず、コーヒーすら飲まない。カジノ経営で儲けることはあっても、自分自身はギャンブルに手を出さない。禁欲的である。

トランプ氏の奇妙な信仰は特殊なものではなく、米国のピューリタンの性格を持っている。それは「富と成功」という福音である。聖書は神の一方的な恵みを説いているが、米国に土着したキリスト教は、神は正しい者を祝福するという「双務」関係、「因果応報」の理解を生んだ。それが、成功者は神の祝福を受けているとする解釈に逆転した。「富と成功」を勝ち得た者は、様々な問題があつたとしても、神が是認し成功を与えたと見なす。トランプ氏は、自分自身を神に是認された成功者と楽観的に考え、米国の白人クリスチャンたちも、彼を神に祝福された者として支持し、今回の大統領選挙に反映された。

トランプ氏は「アメリカを再び偉大な国にする」ことを掲げて当選した。「偉大」とは国政にビジネスマインドを導入し、国内の雇用を取り戻し、不法移民を追い出し、不要な福祉を廃止し、米国民の暮らしを豊かにすることである。国内経済が潤っていれば、正義や平等や人権などの理念は棚上げされ、他国でどんな悲惨があろうとも感知しない。

主イエスは「貧しい者、悲しむ者、義に飢え渴く者」を幸い、神に是認されていると、逆説の福音を説かれた。森本氏は「石が叫ぶ」を締めくくりの言葉としている。